

# 露地ねぎほ場への有機物投入による物理性改善

令和5年度

～露地野菜の安定生産～ 【北斗市野菜生産出荷組合ねぎ部会(110戸)】(地域第1係・課題番号4)

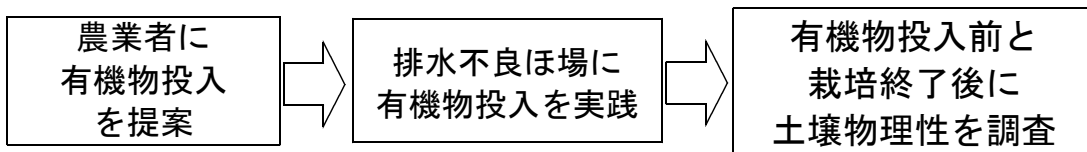
## 1 課題の背景

北斗市では、長年8～11月に収穫する露地ねぎを栽培しており、近年増加傾向にある。その多くは、水田転作で栽培されているため、降雨後の長期滞水により、生育停滞、収量・品質の低下を引き起こしている。これらの問題を解決するために、有機物投入による物理性改善を図った。

## 2 活動内容

活動の経過

具体的推進事項 「モデルほ場設置 0戸 → 1戸」



※土壌物理性を調べるため、道南農業試験場に各種土壌分析を依頼

## 3 活動成果

モデルほ場を1戸設置することができた

★土壌硬度・・・有機物投入による効果は見られなかった

★土壌の三相分布・・・有機物投入による効果は見られなかった

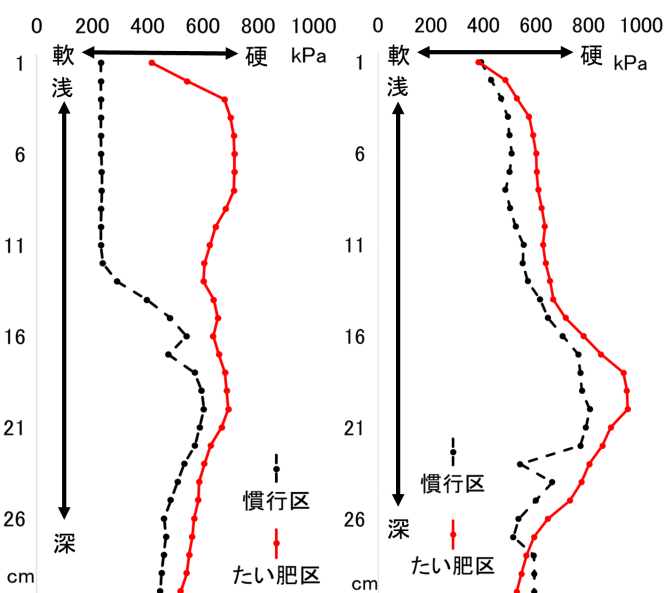


図1 土壌硬度 (有機物施用前)

図2 土壌硬度 (栽培終了後)

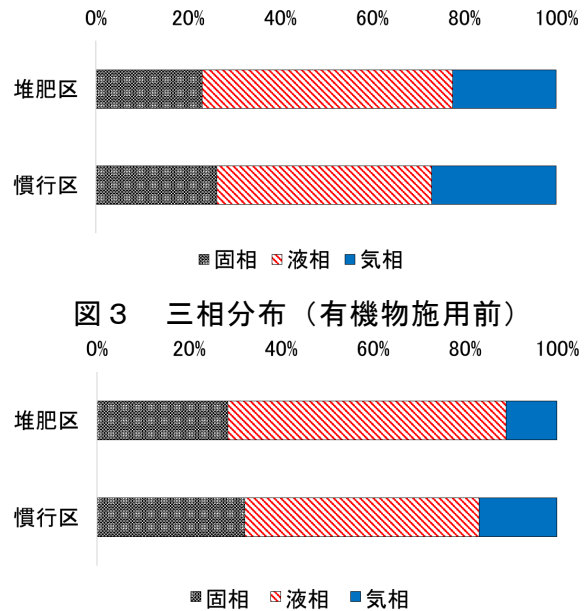


図3 三相分布 (有機物施用前)

図4 三相分布 (栽培終了後)

今回、有機物を投入したほ場は、心土層に泥炭があり、毎年耕起することで作土層に有機物が施用されている状態となっていた。このようなほ場では、プラウや深耕ロータリーによる耕うんで物理性改善効果が期待できる。

## 4 今後に向けて

下層土の土壌の種類に応じて、有機物投入を検討する。本課題は終了とする。